



花を囲んで会話が弾む参加者たち。

旭市の仮設住宅で ふれあいの場づくりをしよう

ちばコープ

東日本大震災により発生した津波で大きな被害を受けた千葉県旭市。ちばコープは、今もなお仮設住宅での生活を続ける被災者たちに向けたさまざまな支援活動を行なっている。その中の、「スマイルカフェ」の取り組みに焦点を当て、紹介する。

仮設住宅の集会室で 「絵手紙」を描く

千葉県旭市の飯岡地区に設置された「いいおかふれあいスポーツ公園」仮設住宅（約150戸）の集会室。6月27日の午後、高齢者を中心とした20人ほどが三々五々集まり、世間話に花を咲かせていた。ここでは、継続的に「スマイルカフェ」という名のお茶会が行なわれている。

集まった人たちを前にして「私たちは花も恥じらう、美人会です」と自己紹介を始めたのは、この日「絵手紙」の指導を行なった、ちばコープ・組合員サークルのメンバー。画材が配られ、テーブルの上に置かれたアジサイやヒ



ちばコープをはじめ、さいたまコープやコープとうきょうなど、コープネット事業連合の各生協から集まったボランティアの皆さん。

マワリなど色とりどりの花の写生を皆が始めた。仮設住宅に住む中村和恵さんは、「今はアジサイがきれいなね。津波で庭に海水が入ったでしょ。塩でほとんど花は枯れてしまっただけ……」と、独りごとを言うように話した。

「最初は元気が出なくてね。やっと最近なのよ、こうやって出てこられるようになったのは」

心に傷を負った 高齢の被災者に寄り添う

11年3月11日の東日本大震災で旭市に到達した津波は、全部で7波。中で

も最高7.6mの高さを記録した同日17時20分の第3波などによって、死者13人、行方不明者2人、全壊336世帯、大規模半壊432世帯という大きな被害を受けた。

「スマイルカフェ」にやってきていた伊藤とみさんは、

「もう何もかも失いました。だいたいの方は第3波で亡くなっていますね。2回目の津波が小さかったから、せっかく避難したのに、また家に戻っちゃった人もいて」と悔しさをにじませる。

この日は、ちばコープで介護事業に携わる職員が訪れ、「足湯」と足のマッサージなどを行なったが、これは高齢の被災者に好評を博していた。



「足湯」と足のマッサージも、ちばコープ職員によるもの。

ふれあいの場づくりをしよう

ちばコープでは震災発生直後から、東北の生協を支援する一方で、県内の被災地についても、お見舞金や飲料水をお届けし支援を行ってきた。また、組合員主導で、旭市特産の花を使ったフラワーアレンジメント講習会を各地で開催し、収益を寄付する支援も行なわれた。

8月には、仮設住宅に千葉県から生活支援アドバイザーも派遣され、被災者のニーズを身近に聴き取るアドバイザーの協力のもと、ちばコープの仮設住宅支援の取り組みにも弾みが付いた。

「生活支援アドバイザーから出された一番の課題は、阪神・

淡路大震災のときのよりに、高齢者が閉じこもり、「孤独死」にならないようにすることです。それで、物資の支援も大事だけれど、ふれあいの場づくりをしよう、という方向性が固まりました」

そう話すのは、同生協地域政策・渉外担当



絵手紙に思いをたたためる。

部長の近藤直幸さん。そこで、職員ボランティアによる「炊き出し」、ふれあいの場づくりを企画した茶話会の「スマイルカフェ」など、多くの方が集える場所づくりに力を入れていった。現在では、毎月月末開催の「スマイルカフェ」のほかに、組合員グループや地域グループの支援企画も入り、月3、4回の支援企画が行なわれるようになっていく。

サポーターが活躍する「まけないぞう」

ちばコープの組合員活動エリアは1区から6区に分かれているが、それぞれの地区にはサポーターと呼ばれる、活動を支援する非常勤の職員がいる。

3区に属する旭市などの被災地支援には、これらのサポーターが貢献している。特に、神戸の「被災地NGO協働センター」がコーディネートする「まけないぞう」作りの講師として、3区のサポーターは大きな役割を果たしているという。

「まけないぞう」は、家庭に眠って

る新品のタオルを組合員に提供してもらい、被災者が手作りする、象の形をした壁掛けタオルだ。1本当たり400円で販売されるが、このうち100円が作り手の収入になり、50円が基金として積み立てられ、支援活動費に充当されている。前出の中村さんは、

「『まけないぞう』作りを教えるために、いろんな方が来てくださると、その時だけでも、夢中になってやれるじゃない。うちにいたら、もう、しょんぼりしているだけだから、ほんとうにありがたくて」とうれしそうに話す。伊藤さんも、

「『スマイルカフェ』には初めて来ましたが、コープさんには本当に感謝しています。まさかこんな目に遭うとは思いませんでしたが、今度、被災者のために新しい市営団地を造ってくれることも決まったので、前向きに頑張っていきたいですね」と言葉をつないだ。まさに、「まけないぞう」という心意気で、復興に向けた活動は、続いていく。



タオルでつくる「まけないぞう」作成の取り組みは、全国に広がっている。

※ 被災地でのからしをサポートするNGO。一人ひとりが自立し、主体的に市民社会をつくっていくための手助けをしている。